

令和6年度第4回女性首長によるびじょんネットワーク実行委員会

次 第

日時：令和7年3月27日（木）
9時30分～9時45分
場所：オンラインにて開催

1 開 会

2 報告事項

報告1 冊子「未来を創る女性首長たち」について

3 審議事項

議案1 冊子「未来を創る女性首長たち」の活用等について

議案2 女性首長によるびじょんネットワーク実行委員会令和6年度事業報告の
一部修正について

4 そ の 他

5 閉 会

<資料一覧>

資料1	びじょんネットワーク冊子「未来を創る女性首長たち」について
資料2	冊子「未来を創る女性首長たち」の活用等について
資料3	令和6年度 第6回女性首長によるびじょんネットワークの実施報告（変更）



- **タイトル：未来を創る女性首長たち**
～未来のリーダーへ贈るメッセージ
- **ページ数：253ページ**
- **54名の女性首長を掲載**(他、女性経営者2名、メキシコ駐日女性大使、東商小林会頭含め **計58名**)



女性活躍の輪を日本全国へ

私は、日本の最大の未活用エネルギーは女性の力だと考えています。時代がめまぐるしく変化する中で、持続可能な社会、明るい未来を創り上げていくには多様性が欠かせません。その実現を左右する鍵が、女性の活躍です。「東京は、もっと輝けるはず」。その思いで、東京都知事に就任して以降、女性管理職を登用する企業への支援や男性育職取得率の向上、東京都の審議会へのクォータ制の導入などの施策を展開し、女性の活躍を後押ししてきました。

日本は、まだまだ世界から遅れをとっています。とりわけ、意思決定に関わる女性の少なさには深刻です。今こそ、ゲームチェンジの時。東京都は、女性活躍の輪を日本全体に広げるプロジェクト「Women in Action」、通称「IWA (わ)」をスタートさせました。

このびじょんネットワークでは、企業の経営層や女性経営者、さらには各国の駐日女性大使の皆様と連携して、お互いの経験を活かし、伸ばしていきます。みんなで力を合わせ、日本中で女性活躍を力強く推し進めましょう。

未来をつくる女性の皆さんへ

本書では、それぞれの女性首長が、首長を目指したきっかけやこれまでの経験などを、次世代の女性リーダーに向けて贈っています。誰もが夢や希望を抱き、自己実現を追求できる社会を実現するために、私たちにできることは何か。読者の皆さんの真摯な希望を引き出し、高め、具体的な行動を応援していきたいと思っています。



日本の元気、女性から

持続可能で活力ある社会を実現するためには、人口の半分を占める女性も、能力を十分に発揮して活躍することが不可欠です。女性の能力が十分に発揮されないのは、社会の大きな損失だと考えます。

誰もが輝き幸福を実感できる未来

私は、知事就任当初から、誰もが性別にかかわらず個人として尊重され、その個性や能力を十分に発揮できるよう、先駆に立って男女共同参画の推進に取り組みでまいりました。全国知事会でも「男女共同参画プロジェクトチーム」のリーダーとして「ジェンダー平等の実現に向けた提案〜一人ひとりが幸福を実感できる社会の実現に向けて〜」をとりまとめ、政府に強く要請しています。

人口減少が急速に進む中、日本が活力を維持し、さらに発展していくためには、政策・方針決定過程や、地域・経済などあらゆる分野に女性も参画し活躍していくことが不可欠です。そのため本県では、これまで女性の参画が進んでいなかった防災や科学技術分野などへの参画拡大や、企業における女性登用の一層の促進に加え、男女共同参画の視点を持つ次世代の人材の育成にも取り組んでまいります。

皆さんの活躍で、誰もが輝ける社会を実現していきましょう！

首長

70代、人生これから！ 自分に熱いエールを！



19
千葉県
勝浦市長
照川 由美子
TERUKAWA Yumiko

1952年8月22日 千葉県勝浦市出身
1979年3月 千葉教育短期大学校専攻科卒業
1979年4月 千葉県公立小学校教諭
2010年4月 いすみ市立立河小学校長
2012年5月 勝浦地方教育研究所長
2015年5月 勝浦市議会議員（1期目）
2019年5月 勝浦市議会議員（2期目）～2022年8月
2022年8月 勝浦市長就任

2 笑顔で、本職から講演、勉強！

千葉県 勝浦市長 照川 由美子 3

Turning Point 首長を目指したきっかけ

退職後、母を看取ってから市議会議員となり、2期目の終盤のこと。突然の市長選去により市長選挙を行うこととなり、市議会議員だった男性3名が出馬表明しました。女性も出馬するのが望ましいとも考えましたが、70歳を過ぎようとしていた私は、体力・気力面で自分自身が市長をめざし活動することは厳しすぎると判断しました。

そのような折、今野由梨さんという女性経営者の講演を聞く機会を得ました。ダイヤル・サービス（赤ちゃん110番）の創業者であり、代表取締役の由梨さんは、80歳半ばには全く見えません。10センチのハイヒールで風流と登場し、2時間におたり精力的に語ったテーマは、「80代、人生これから！」。そのパワーあふれるお姿に心が躍り、大きな勇気を頂きました。思い切って挑戦してみよう！講演会場を出る時には、「70代、人生これから！」と自分にエールを送っていました。それから1ヶ月、怒涛の日々であった選挙活動を楽しみ切り、市長職を担うことになってまもなく2年半です。あの時の由梨さんの声、「準備してこの世に生まれた人はいない。人生、アドリブよ！悩まない。誰かのためにまず動くこと。変えるのではなく、質が変わるよ。この先私はどんな私になっていくのか。自分の変化を面白がりながら、この命、生き切るわ！」に、今も励まされています。

地域から社会を変えていく



25
東京都
品川区長
森澤 恭子
MORISAWA Kyoko

1978年11月10日生まれ
2002年3月 慶応義塾大学法学部政治学専攻卒業
2002年4月 日本テレビホールディングス株式会社入社
2006年4月 トレンダーズ株式会社入社
2007年4月 南ビル株式会社入社
2014年1月 株式会社みん女のウェディング入社
2015年4月 株式会社アリス社
2017年7月 東京都議会議員
2022年12月 品川区長
2023年4月 南ビル株式会社社長

2 江戸のゆせ、ウェディングシニアを目指す

東京都 品川区長 森澤 恭子 3

Turning Point 首長を目指したきっかけ

夫の留学と転職を契機に、それまで正社員として蓄めていた会社を退職し、第一子とともにシンガポールに渡りました。

しばらくして帰国し、子どもが9歳と2歳の時に再就職しようと思いました。多くの仕事が残業前提の長時間労働で、柔軟に働ける仕事は少なく、さらに、保育園も長かなかみつからず苦労しました。結局、9歳児を一駅電車に乗った先にある保育園に預けることになりました。私の場合は、これまでで再び働き始めましたが、こういった状況では働きたくてもあきらめてしまう女性も多いのではないかと感じた次第です。

そういった中で、まだまだ政治や意思決定の場に女性や子育て世代の声が届いていないことを痛感し、東京都議会議員選挙に挑戦。都議会議員を2期5年務める中で、都政はもとより、子育て、福祉、学校、まちづくりなど、地元品川区の様々な課題に関するお困りごとが寄せられることが多く、それであれば、直接的に地域の課題を解決していこうと思いました。そして、なかなか国から変えていくには時間がかかると思い、地域から社会を変えていこうと、首長を目指しました。

Episode

女性首長として苦労された事、乗り越えたエピソード

市長として2年半、「苦労している」という気持ちはありませんが、女性市長としての「苦労らしき」ものを一つ挙げるなら、ほとんどが男性である市長・議員・組織の代表者等との「意見調整」です。女性を重視する傾向は減ったと思われませんが、差別的視線や発言をする人はまだ存在します。これらの要望を良い方向に向かわせるためには、感情を抑え言葉を取り込めなければ、先に進めない場合もありますが、ここは！と思う時は、ワタシが間を置き、改めて発言内容を示しながら毅然とした申し入れを行い、自覚を深めてもらえるよう努めています。

まもなく73歳になる私自身の課題は、「体調管理」です。40代最終、ストレスのかかる役職を担う中、気管と胃腸を構えた私は、60代後半から咳き込むことが多くなり、おなかを壊すことが頻発にありました。これは、ハードな日程をこなして動き回る首長としての負担に由来します。まずは、症状・食物・環境等を自分なりに記録・考察し、原因となるものを洗い出し、特定の食物や環境変化等に気をつけるようにした結果、予想以上の改善が見られました。衰えてきた身体と真剣に向き合った後の喜び！ 次は「運動不足」をどうしていくか、「減量」が重い課題です。

Evidence 取り組み実績

ここ5年間の勝浦市の出生人数は数減傾向にあり、少子化が最も切実な課題です。そこで、2025年4月より、「こども未来応援課」を新設し、音楽を見聞したまちづくりを進めます。まずは、市民の心に響く「子育て応援宣言」を行い、未来へのビジョンを示したいと考えます。次に、これまで進めてきた「子育て経済支援」をさらに充実させ、切れ目のない支援を行うことにより、出生率アップと、定住の促進強化を図りたいと思います。子育て無点との連携を図りながら、まち全体で子育てを応援する雰囲気をつくり、「前！進！いま！勝浦」の次は、「ゆりかごのまち勝浦」と言われるよう努めてまいります。

Message

次世代の女性リーダーへ向けメッセージ

首長としての楽しみがいくつかあります。そのひとつは、個性豊かな人々との出会いが毎日あることです。地域産業を盛り上げているメンバーや組織のリーダー、熱い情熱をもった起業家達~の中にキラキラ輝く女性の姿を見かけると、心が希望で満たされます。先人のご苦労とその思いを忘れず、今やるべきことを皆と相談し、一丸となって取り組むことができるのも、喜びの一つです。「自分を縛らず、責めず、思ったままに動くことよ」という由梨さんの声が今も聞こえます。壁はまらず、性別にとらわれず、自分らしく、命懸けでまいりましょう。一緒に！

Episode

女性首長として苦労された事、乗り越えたエピソード

品川区は、初めてとなる女性区長をあたかく迎えてくれたと感じています。特に、女性の皆さんからの「がんばってほしい」とのエールを強く感じます。

一方で、職員にとっては、突然外部からやってきたトップなので、最初は戸惑いが大きかったのではないかと推察します。私の考え方や目指す方向性を共有することは大事だと考え、様々な機会をとらえて伝え続けてきました。2年間伝え続け、だいぶ浸透してきたのではないかと実感しています。また、職員との距離を縮めたり、現場を理解するために、新人職員からベテラン職員まで誰でも参加できる区長室でのランチミーティングなどを開催し、ざっくばらんにお話をするなど工夫をしています。

各種審議会やイベント講師の男女バランスの偏りなどについては、私が女性だからこそ気づくことも多く、気になったものについてはその都度指摘し、できるだけ改善するようにしています。なお、審議会等においては、どちらかの性が40%以上になるよう目標を定めています。

Evidence 取り組み実績

2024年4月に「品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例」を施行しました。ジェンダー平等を条例名に冠したのは、兵庫県明石市に次ぎ、全国で2例目です。また、基本的な考え方のひとつに「女性のエンパワーメント」を記しました。いわゆる「女性活躍」ではなく、一人ひとりが持つ力を十分に発揮できるように後押ししていくことが重要だと考えています。条例が浸透するよう取り組み、性別にかかわらず誰もが自分らしく生きていける品川区をつくりたいと考えています。

Message

次世代の女性リーダーへ向けメッセージ

リーダーというポジションについて、「私には務まらないのではないかと躊躇してしまう女性も多いかもしれません。ただ、実現したい理想がある時には、リーダーになることで、その理想に近づけることができます。そのやりがいはいずれも知れませんが、ひと昔前は、強いリーダーが求められていたからかもしれませんが、今は、変化が激しく、先が見通しづらい時代、人々に寄り添い、みんなの力を引き出しながら、組織変革に対応していく、しなやかでやさしいリーダーシップが求められていると感じます。そこには女性の強みを活かせる部分も多いかと思えます。ぜひ挑戦してみてください。



駐日メキシコ大使 (2019年6月より)
メルバ・ブリーア PRIMA miba

現職以前は、駐インドネシア大使 (2019~2019年)、駐インドネシア大使 (2007~2015年) を歴し、アジアにおけるメキシコの外交戦略策定にも貢献した。メキシコ国内の公的機関で、資源、アイデア、資金、社会的起業や市民性への支援などの政治や政策に関するアワードを中心に取り組んできた。外務省では国内の市民社会との関係強化に貢献した。ジェンダー平等、多様なインクルージョンを重視し、次世代を担うリーダー育成に努め、これらの価値観を掲げている。メキシコ生まれ、社会学における修士号、公共政策および国際研究に関する修士号を取得。さらに国際安全保障と戦略研究で大学院課程を終了。多国籍で公共政策に関する著書も多数執筆。

女性の参画が社会を変える—メキシコと日本の挑戦

私はこれまで、女性たちが政策立案の中心に関われるよう尽力してきました。私はひとりの公職員として、女性のエンパワーメントを推進することが重要だと考えており、その第一歩として政治における女性の代表を増やすことが不可欠だと考えています。女性が意思決定の場で発言権を持つことは極めて重要ですが、その実現を阻む障壁は、法律や慣習、固定観念など、社会のさまざまな分野に存在しています。メキシコでは、クオータ制の導入により2018年以降、選挙制度で男女同数の議席が確保されるようになりました。これは、女性議員と男性議員が意見の違いを乗り越え、共通の目標に向かって努力した成果です。そして昨年10月、メキシコは史上初の女性大統領を迎えました。

一方、日本ではジェンダー平等の課題が依然として多く、2024年の「ジェンダーギャップ・レポート」では146の国中118位にランクされています。しかし、少しずつではありますが、女性の政治参画やリーダーとしての活躍が増えています。さらなる改革が求められることは明らかです。

小池知事と吉村知事が推進する「女性首長によるびじょんネットワーク」は、女性首長を支援し、社会全体のジェンダー平等を促進する取り組みです。両知事のリーダーシップと実績は、日本全国の若い女性に勇気を与えているでしょう。このような活動が、日本社会の意識を大きく変えていく可能性を秘めています。

日本とメキシコには、何千年もの歴史、豊かな食文化、家族を大切にする価値観。さらには女神を起源とする神話など、多くの共通点があります。どちらの国も東洋的な文化を持ちながら、社会の変化を通じて、より平等な未来を築くことができると信じています。育児休暇の改善や、ビジネス、スポーツ、芸術における女性の活躍など、前向きな変化が見られています。アフターメディアアクション（積極的改善措置）も、その変化を加速させるかもしれません。

社会は常に進化しています。女性に適切な機会が与えられれば、社会全体の発展に大きく貢献できると確信しています。



社Mentor For 代表取締役社長
佐佐木 MASAKO

早稲田大学卒業後、新卒でP&G入社。転職を経てNPO、コンサルティングに携わる。在学中にINSEADで修士号取得し、2014年に起業。日系海外でパートナーが海外赴任。フューチャリーに事業転換し、2018年〜子育てを目的とした社外メンターマッチング事業を立ち上げる。2年〜育児を経て親族の都合でドイツに移住。2年間、日本と行き来しながら子育て。本で事業拡大中。企業でODIや女性活躍の推進活動にも注力。第2回Future Awards JVA審査委員会特別賞、第4回東京女性経営者アワード、第10回東京女性経営者アワード、第8回ODI女性創ビジネスアワード、コンプライナリスト等、受賞歴多数。

自分らしく生きていくために

女性のキャリアは、結婚や出産、家庭の事情など、人生の様々な選択が絡み合いますし、私も多くの壁にぶつかってきました。その中で「どう生きたいか」「何を大切にしたいか」を自分で決めることが、最も重要だと考えています。

しかし、一人で悩み、迷うことも多いでしょう。だからこそ、メンターやロールモデルの存在が大切です。私自身、経営者として仕事や育児との両立で試行錯誤を繰り返す中で、先を歩くメンターの言葉や姿勢に救われ、次の一歩を踏み出せました。身近に相談できるロールモデル・パーツモデル的なメンターを持つことで、「私にもできる」と思える瞬間が増えるはずです。

そんな思いから私が始めたMentor Forでは、そんな女性たちが次のステップへ踏み出せるよう、経験豊富なメンターとマッチングする仕組みを提供しています。自分らしいキャリアを築くために、迷ったときこそ誰かの力を借りることも大切です。

今、社会は確実に変わっています。女性が自分らしく活躍できる時代をつくるために、一歩を踏み出してみませんか？自分の可能性を信じ、人生を主体的に選択する女性が増えることを願っています。

むすびに

本書「未来を創る女性首長たち〜未来のリーダーへ贈るメッセージ〜」をお読みいただき、誠にありがとうございます。本書は、現在行政の第一線で活躍されている女性首長の皆様による貴重な経験談やメッセージをまとめた一冊です。こうして皆様にお届けできることは、女性活躍の「輪」を広げる取り組みである「Women in Action」(WA)を推進するうえで、大きな意義を持つと考えております。各地でリーダーとして奮闘される皆様が示された力強い歩みとメッセージは、次世代の女性リーダーにとって大きな励みとなることでしょう。

私自身、東京商工会議所会頭として、女性の活躍が社会や経済の発展に不可欠であると強く認識しております。2024年12月には、東京商工会議所・日本商工会議所において「多様な人材の活躍施策に関する重点要望」を決議し、「女性のキャリア支援の強化」や「女性の就労拡大を阻害する税・社会保障制度の抜本的見直し」を重点項目として盛り込みました。本要望の実現に向け、行政と連携しながら着実に取り組んでまいります。

本書がより多くの方々に届き、女性活躍の輪が一層広がること、そして女性リーダーが増え、社会全体がより豊かになることを心より願っております。



東京商工会議所 会頭
小林 健 KOBAYASHI Ken

東京生まれ。1971年東京大学法学部を卒業後、三菱商事に入社。近衛・高橋事業に20年以上従事したほか、ロンドン支店勤務、シンガポール支店長なども経験し国際経験にも秀でた。2010年同社社長、16年会長を経て、22年から相談役。22年11月に東京会頭・日商会議に就任。趣味は高球を打つこと、特技はバドミントン。大学の公立立学選考委員でバドミントン2連覇を果たした。

【今後の活用】

■ 冊子の配布

- ✓ 全国の女性首長
- ✓ 駐日女性大使
- ✓ びじょんネット参加者等
- ✓ 女性活躍関連イベントや研修会等 他

■ SNSを活用

- ✓ びじょんネットワークのHPで公開
 - ➔ 見やすい位置にクリックボックスを作成
- ✓ SNS(X、Facebook、Instagram)は、**1首長ずつ54回に分けて継続的に発信**
(都や参画自治体にフォローしてもらう)
- ✓ **4月から週1回配信**。びじょんネットワーク会議が近づいたタイミングで、**配信頻度を上げて集中的に発信**。会議に参加(視聴)する機運を醸成。

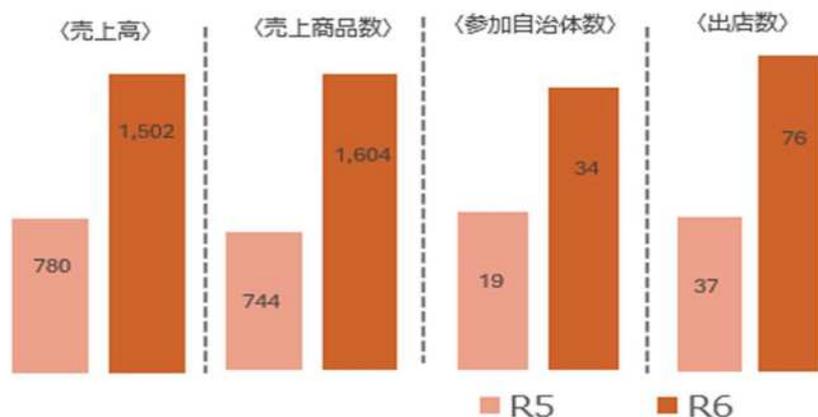
ポップアップショップ

- ・期間 令和6年10月11日(金)～15日(火)
- ・場所 KITTE丸の内1Fアトリウム
- ・売上 **1,501,587円**
- ・売上商品数 **1,604個**
- ・購入者数 **448人**
- ・自治体数 **34自治体**
- ・出店数 **76店舗**
- ・販売商品数 **164商品**

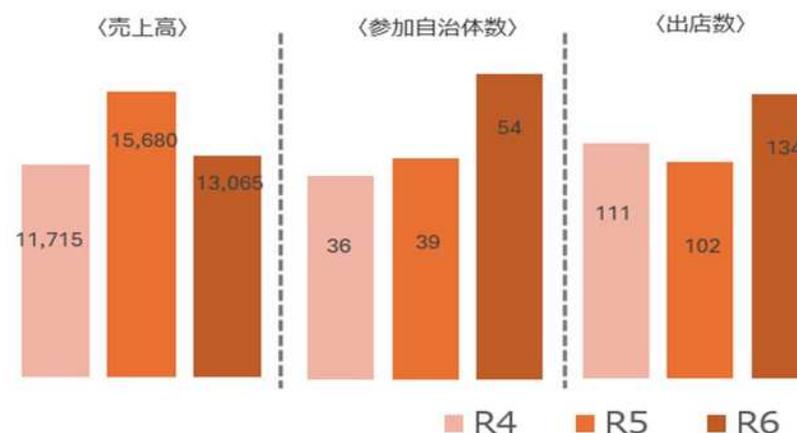
オンラインマルシェ

- ・期間 令和6年9月9日(月)～6年1月31日(金)
- ・場所 楽天市場
- ・売上 **13,065,076円**~~12,142,101円~~
- ・売上商品数 **5,206個**~~5,226個~~
- ・自治体数 **54自治体**
- ・出店数 **134店舗**
- ・販売商品数 **440商品**

ポップアップショップ実績推移



オンラインマルシェ実績推移



- ✓ ポップアップショップは、実施場所を「人通り」や「立地」を考慮してKITTE丸の内内で実施。また、企画展の開催や装飾等の工夫を行ったことで、売上は大幅に増加
- ✓ オンラインマルシェは、開催期間を1か月短縮。売上額は減少するも販売期間で案分すると横ばい(やや微減)。参加自治体数と出店数は増加。(2980円以上送料無料とすることで1購入あたりの単価の増)
- ✓ ポップアップ・オンラインともに、自治体へ丁寧に説明を実施し、参加自治体数・出店数ともに増えた。
- ✓ 購入者へアンケートを実施、モニターの活用等でびじょんネットワークの認知度の向上につながった。